

青野原村の兵事資料、 その希少性を再認識！



令和5年10月21日(土)、第23回企画展に併せて開催した、相模原市立公文書館第9回講演会の内容についてお知らせします。



青野原村の兵事書類⇒

昭和20年(1945)8月15日、敗戦と共に、兵事書類、軍事に関する書類は焼却・廃棄処分をするようにという通達が出されて、町村にも警察署を通じてその命令が伝えられたといえます。

しかし、自治体史編さんの中で、旧兵事主任が秘匿していた事例や旧村役場で保管されていた事例などが出てきて、必ずしも焼却命令に従っていない例があり、青野原村の兵事書類も残された理由ははっきりしないが、その一つの例であるという説明が、山本和重氏(東海大学文学部日本史専攻教授)からされると、講演会参加者は改めて展示された兵事書類を食い入るように見つめていました。

10月21日(土)に開催された第9回講演会は、企画展が馬匹書類に特化した展示であったため、よりオーソドックスな兵事書類、兵員の召集・動員に係る青野原村役場の兵事書類について、その希少性を含め語っていただきました。

青野原村の兵事書類の特徴は、満州事変期の資料が少なく、日中戦争期以降の書類が多いこと。特に、日中戦争勃発時から敗戦時までの「動員日誌」が揃っていることで、一村の日中戦争期からアジア太平洋戦争期における召集・動員の推移を明らかにできることにありとされました。参加者からは、通常では見られない国家の機密資料を公開してくれたことに感謝しますという意見が寄せられました。



熱心に講演に聞き入る参加者の皆さん

常設展示「歴史的公文書(旧町村文書)からわかること～相模原町の誕生と市制施行～」

開催期間／令和5年11月 9日(木)～

場所／相模原市立公文書館

流送と育林・津久井の近代林業史

近代津久井の基幹産業の一つとして知られる山仕事。山仕事は、林業と炭焼きに大別されますが、今回は明治から昭和の津久井の林業に関する歴史的公文書などから、その流れを跡付けます。

明治期、鳥屋山では東本願寺の再建に関連したケヤキ調査が行われ、山林資源としてのケヤキの有用性が村人に意識されます。大正期、青根山特に神ノ川流域での木材の伐採、流送事業が盛んになります。

さらに、関東大震災による山林の崩壊、戦時中の乱伐のため山林が荒れたことにより、育林が意識され、やがて水源林保護事業につながっていきます。



京都東本願寺に残る鳥屋村文書(真宗大谷派宗務所提供写真)

地名伝承から事実へ

鳥屋山に、大虹梁^{おおごりりょう}という地名が残っており、京都東本願寺の二番虹梁（化粧の梁材）のケヤキを採った場所だと伝えられていました（天野益「ふる里鳥屋村四方山話」『津久井町の歴史今昔』）。

平成18年(2006)、東本願寺から津久井郡鳥屋村の山林資料についての問合せがあり、明治13年(1880)から同16年にかけて実際の事実であることがわかりました。

明治13年7月、禁門の変で焼失した東本願寺御影堂等の再建に着手した本山（再建事務局）からの依頼を受け、鳥屋村佐藤熊太郎外2名から「鳥屋村山林立木調査表」がケヤキ30本の絵入りで提出されます。これを受け、東京事務出張所の職員が現地に派遣され確認をし、東京事務総理の鈴木慧淳は本山に担当者の派遣を上申します。

明治15年3月、元郡長の三樹十右衛門と鈴木慧淳との間で「立木売渡証」を締結しています。同年12月、さらに詳細な調査が必要という意見が出て、本山から掛員が派遣され、「相模国鳥屋村山林検査木材記載」を提出、詳細に使用できる場所を検討しています。ただし、伐採から大阪までの運搬費用を計算した録事（担当者）の明治16年2月15日付の報告の中で、運搬費用がかかり過ぎ割高になる、伐採着手は見合わせと結論づけられています。控え木扱いで、伐採の着手は行われなかったようです。

ケヤキ山事件へ

鳥屋山のケヤキは、その後も、美濃国村雲與左

衛門等に売却が図られますが、なかなかうまく行きません。最終的に明治38年(1905)11月8日付で、愛知県熱田町の片田鉄五郎と鳥屋村長が本契約を行います（「樗立木及倒木売買契約証書」）、資金面で難があったのでしょうか、11月17日付で、名古屋の材木商鈴木惣兵衛に名義変更されています。ただし、片田鉄五郎は伐採運搬等の事業の一切を引き受ける総支配人という立場で事業を行っています。伐採期限は、契約の日から満5ヶ年となっており、明治43年までに行われたとされます。現在の横道（奥野林道）がこの時にできたといわれます。

明治39年2月に鳥屋村村民から売買金額等に異議が出され、販売代金の取扱についての争いが生じます。村人全員に分配せよという主張が出され、村の基本財産とする村執行部側の考え方と対立したものです。入会山から鳥屋村の公有林野へと切り替る時期での主張の対立になります。津久井郡参事会の支持もあり、村の基本財産として維持されましたが、村を二分する事件となり、ケヤキ山事件という名称で記録されています。鳥屋村は、この後、「奥野山林人工造林」の決議を村会が行い、植林事業に方針転換していきます。

大倉組の伐採・流送事業

一方、青根の神ノ川流域においては、大倉組の木材伐採と道志川を使った流送事業が行われます。



大倉組伐木所(三ヶ木道志川、大正6年頃)

『津久井町郷土誌』から

明治37年、青根・牧野・青野原三ヶ村共有林をめぐり、日連村山崎剛との間で、立木売買契約が結ばれますが、神ノ川は山が深く急峻であるため、伐採・搬出が困難で、権利が転売され、大正に入り、最終的に財閥の大倉組が権利を手に入れ、大正4年(1915)から長者舎に伐木所を設けて、伐採に入ります。明治38年に道志川での水力発電を企画した東京水力電気(株)社長に大倉喜八郎が就任した関係で、道志川の森林資源に着目したものと思われる。

道志川を使った流送(川下げ)事業は、大正5年に始まり、翌年には三ヶ木字道志川に事務所が作られ、毎年13,000本の丸太材が道志川を川下げされ、大正10年まで、60,000本以上の材木が運ばれています。

初年度は、大正5年4月1日付「流木願」が津久井郡役所に提出され、広積(広河原)から三ヶ木村上河原まで流送し、上河原で筏に組み、相模川を流下し、平塚に至るコースでした。当初、神ノ川は堰狩り(川を堰き止めての鉄砲流し)、道志川落合から上河原までは幹流し(管流し)、上河原から筏流しとされていましたが、道志川筋でも堰狩りを行ったようで、これが他の業者や漁業者、地元住民の反感を買ったようで、反対の陳情書が提出されています。かなり強引な形での流送であったようです。大倉組(大正7年から大倉商事(株))の流送事

業は、大正9年で大部分の川下げを終えたようで、翌10年は残る材木の処分になっています。

一方、津久井郡役所に提出された流木流送許可願は、大正10年に急増します。おそらく、大倉組の伐採木材を利用した転売や残木処分のため、関係者からの許可願が増えたためと考えられます。大倉組の流送事業の中で、ノウハウを取得して、終了後も伐採・流送を業としていった人もいます。八木製材から津久井製材へと続く、津久井の木材産業の基礎が築かれた時期といえるかもしれません。

昭和の植林事業

大正12年(1923)9月、関東大震災が起き、山林が崩壊しました。応急復旧工事は、神奈川県直営にて震災荒廃林地復旧工事として大正13年度から着手されますが、さらに、戦時中の乱伐もあり、戦後は植林事業に転換していきます。治山・治水工事については、東丹沢治山事業所が宮ヶ瀬に開設された昭和28年度以降本格化し、山腹工事や溪間工事が着手されていきます。

造林(植林)については、昭和26年(1951)12月に青根村と本州製紙(株)との間で「部分林契約書」が締結され、パルプ用材として赤松・唐松などが植林されていきます。昭和30年(1955)、昭和の大合併により津久井町が成立し、鳥屋地区の公有山林は鳥屋財産区に引き継がれ、青根地区には牧野・青野原・青根の3財産区が成立します。昭和33年8月、藤野町長と牧野財産区管理会長が、財産区有地での企業庁による分収植林を陳情したことを契機に、企業庁が水源涵養林の造成に乗り出します。企業庁の造林事業は昭和44年(1969)に終了しましたが、官行造林を引き継いだ森林開発公団の造林、神奈川県による県行造林など機動的な植林・造林活動が行われています。さらに、平成19年(2007)からは、水源環境保全税を元にした「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」による水源林の保護事業が展開されています。

ロビー展示の開催

「馬のいた日々からリニアのある未来へ」

展示概要

ロビー展示では、今回、「リニア中央新幹線計画」をはじめ相模原市地域における交通がどのように変遷していったかを中心に公文書館が所蔵する「保存行政資料」と「広報的資料」でたどっていきます。

これを機会に公文書館に足を運んで、行政資料や広報的資料を見て、相模原の遷り変りを考えてみましょう。



令和6年3月29日まで
展示していますので、ぜひ
ご来館下さい。



ロビー展示状況

関東大震災に関する巡回展示を開催！

現在、危機管理課と公文書館の共催の形で、市内各所で、関東大震災から100年の節目にあたり、防災対策に関する巡回展示を行っています。

12月1日（金）から22日（金）まで、公文書館で展示を行う予定です。

これまでの展示の経過

期間	展示施設
7月3日（月）～7日（金）	相模原市役所
7月24日（月）～31日（月）	緑区合同庁舎
8月15日（火）～22日（火）	南区合同庁舎
9月15日（金）～25日（月）	アリオ橋本
10月17日（火）～24日（火）	市立図書館
11月1日（火）～7日（火）	相模大野図書館
11月1日（火）～7日（火）	橋本図書館
12月1日（金）～22日（金）	公文書館

奮って、ご観覧ください！

目録更新します

11/1

令和5年11月1日に歴史的公文書目録を更新します。

今回の更新では、令和5年5月に移管された相模原市の文書（統合文書管理システムで起案された電子文書を含む）743点、及び旧津久井4町の文書169点、計912点を追加しています。

また、保存行政資料についても11月1日から更新します。

いずれも市ホームページから確認いただけます。

《編集後記》公文書館では、明治期以降の町村の重要な施策などの歴史的公文書、市の行政資料などが保管されています。市内の歴史的な施設を巡りながら、公文書館にも立ち寄って市の文書の歴史にも触れてみてはいかがでしょうか。（H）

